



# 学習指導要領との関連

学年	教科等	学習内容
小学3年生～6年生	総合的な学習の時間	
小学3・4年生	社会	身近な地域や市区町村の様子 地域の人々の生活
小学5・6年生	国語	伝統的な言語文化に関する事項（易しい文語調の短歌や俳句について、情景を思い浮かべたり、リズムを感じ取りながら、音読や暗唱をしたりすること） 経験したこと、創造したことなどを基に、詩や短歌、俳句をつくったり、物語や随筆などをかいたりすること
小学6年生	社会	我が国の歴史上の主な事象



# プログラム展開の流れ

時期・・・秋

総時間・・・約十三時間（地区展開プログラムを含まない場合・・・）  
子ども散策集

／約十八時間（地区展開プログラムを含む場合・・・）  
子ども散策集+「地区散策集」



活動・学習内容	指導・ポイント 【教材・ワークシート・体制】
<p>一日目 (90分)</p> <p><b>子規と「散策集」について（学年全体）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・正岡子規と「散策集」についての授業を行い、自分たちが住んでいる松山と俳句の関係が深いことを知る。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・子規の人となり</li> <li>・「散策集」の経緯や内容</li> <li>・【散策ガイド】【WS①】【ふるさと松山学】【のぼさんと学ぶ俳句と言葉】等</li> </ul>
<p>二日目 (45分)</p> <p><b>「散策集」を辿るまち歩きガイドンス（学年全体）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・班ごとに（一班5人程度）、子規が詠んだ俳句、当時の風景の写真や説明文を記載した【散策ガイド】を見ながら、子規の俳句の意味や当時のまちの様子を学ぶ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・散策ガイドの見方</li> <li>・まち歩きのルート確認</li> <li>・各スポットで読まれた俳句とその背景</li> <li>・【散策ガイド】</li> </ul>
<p>三日目 (180分)</p> <p><b>第一回 まち歩き（班ごと）</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【散策ガイド】を持って実際にまちを歩く。</li> <li>・各スポットで【ガイド】の方による説明を聞き、まちへの理解を深める。</li> <li>・また、【散策ガイド】のマップ上の該当エリアに、①昔と違うところ、②昔と同じところ、③その他の発見、④まち歩き</li> </ul> <p>の感想をメモしておく。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ガイドの方と積極的に関わるように促す。</li> <li>・【散策ガイド】</li> <li>・【バインダーボード】</li> <li>・【ガイド】</li> <li>・松山観光ボランティアガイドの会</li> </ul>

<p>四日目 (90分)</p>	<p><b>まち歩き</b>の気付きの整理(班ごと)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第一回まち歩きで気づいた点について、班のメンバー内で話し合い、【模造紙】に整理する。</li> </ul> <p><b>まち歩きの結果発表会</b>(学年全体)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・作成した発表資料をもとに、自分の担当した範囲について、まち歩きの中で気づいたことや感想を発表し、皆で気づきや感想を共有する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ポスターセッション形式をとり、多くの考えに触れられるようにする。</li> <li>・様々な発見や表現を認め、多様な見方を引き出す。</li> </ul> <p>【模造紙】【付箋】</p>
<p>五日目 (45分)</p>	<p><b>『子ども散策集』作成ガイド</b>ンス(学年全体)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・第一回まち歩きで歩いたコースを対象にして、これから『子ども散策集』を作成・発表するまでの流れを理解する。</li> <li>・説明内容</li> <li>①まち歩きの際に、自分達が気付いたことや感じた事を基にして俳句を作成する。</li> <li>②子規の俳句に加えて、①の児童の俳句を載せた『子ども散策集』を作成する。</li> <li>③(場合によっては)『子ども散策集』の発表会を、地域の方々や保護者などに聞いてもらう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『子ども散策集』という名称は、児童の意見を踏まえて適宜変更する。</li> </ul> <p>【WS②】</p>
<p>六日目 (180分)</p>	<p><b>第二回 まち歩き</b>(班ごと)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・【散策ガイド】と【俳句ノート】を持って、再度まち歩きを行う。</li> <li>・児童一人一人が今の松山の様子を俳句に詠む。</li> </ul>	<p>【散策ガイド】</p> <p>【俳句ノート】</p> <p>【バインダーボード】</p> <p>【カメラ】</p>
<p>七日目 (90分)</p>	<p><b>『子ども散策集』を鑑賞する句会</b>(学年全体)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・子規の俳句と比べつつ、自分達が作成した俳句を皆で鑑賞する。</li> <li>・(場合によっては)児童の保護者や地域の方々、俳句の先生にも参加してもらい、自分達の俳句を紹介する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発表資料の作成・準備</li> </ul> <p>【WS③】</p> <p>【俳句の解説者】</p> <p>・教育研修センターでの出前講座利用</p>
<p>八日目 (45分)</p>	<p><b>プログラムの振り返り</b>(学年全体)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・これまでの取り組みの振り返りを行い、「自分達が学んだこと」「松山や近隣地区、子規への思い」「今後何をしていきたいか」などについて話し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域と自分とのつながりを自覚してもらう。</li> <li>・地域の一員として、地域を守り育てていく役割や継続的な学びについて考えてもらう。</li> </ul> <p>【WS④】</p>

## ● 地区展開プログラム「地区散策集」の作成

※授業カリキュラムに時間的余裕がある場合

<p>九日目 (90分)</p>	<p><b>「地区散策集」作成会議</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地元校区を対象にした『地区散策集』を作る計画を立てる。</li> <li>・校区の魅力、お気に入りのスポット、歴史や文化について話し合う。</li> <li>・その上で、散策ルートを決め、まち歩き計画書を作成する。</li> <li>・繰り返し散策できるように、下校グループを中心に班を構成する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『地区散策集』という名称は、児童の意見を踏まえて適宜変更する。</li> <li>・自分が住んでいる地域の魅力を再発見する視点を持つてもらう。</li> </ul> <p>【WS5】</p> <p>【校区の歴史や文化に関する文献資料】</p>
<p>十日目 (自習)</p>	<p><b>地元校区の歴史や文化に関する自主調査</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地元校区の歴史や文化に関して、自分達が興味を持ったことや気になったことについて、文献等を用いて調べる。</li> <li>・調べた内容を班内で情報共有し、皆で理解を深める。</li> </ul>	<p>【校区の歴史や文化に関する文献資料】</p> <p>【身近な地区でも今まで見過ごしていた点があることに気付いてもらう。】</p>
<p>十一日目 (90分)</p>	<p><b>第3回 地元校区内のまち歩き(班ごと)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・班ごとに、地元校区内の担当ルートを散策し、お気に入りのスポットで俳句を詠む。</li> <li>・まち歩きをして気付いたことや感想を地図上にメモしておく。</li> <li>・適宜、各スポットの写真を撮っておく。</li> </ul>	<p>【地図】【WS6】【WS7】【俳句ノート】【バインダーボード】【カメラ】</p>
<p>十二日目 (90分)</p>	<p><b>「地区散策集」の作成(班ごと)</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・班ごとに、校区内のまち歩きを通じて自分達が作成した俳句、気付いたことや感想、写真や絵等を地図に載せた『地区散策集』を作成する。</li> </ul>	<p>【WS8】【模造紙】【付箋】等</p>
<p>十三日目 (60分)</p>	<p><b>「地区散策集」の発表会と振り返り</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・自分達が作成した俳句を皆で鑑賞する。</li> <li>・まち歩きをした時に、気づいたことや感想を述べ合う。(場合によっては)児童の保護者や地域の方々、俳句の先生にも参加してもらい、自分達の俳句を紹介する。</li> <li>・「地区散策集」づくりを通じて、「自分達が学んだこと」「松山や近隣地区、子規への思い」「今後何をしたいか」などについて話し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ポスターセッション形式をとり、多くの考えに触れられるようにする。</li> <li>・地域と自分とのつながりを自覚してもらう。</li> <li>・地域の一員として、地域を守り育てていく役割や継続的な学びについて考えてもらう。</li> </ul> <p>【WS4】</p> <p>【俳句の解説者】</p> <p>・教育研修センターでの出前講座利用</p>

※【WS1】～【WS8】は、平成二十八年年度の新玉小学校での取り組みの際に、担当教員(友松恭子先生・玉井淳博先生・清家和子先生)及び松山市教育研修センター「わくわく出前教室」講師の青野郁恵先生が作成したワークシートを表しており、添付のCDにデータを収めている。【WS1】「子規の俳句の学び」／【WS2】「俳句づくりのポイント」／【WS3】「句会をしよう」／【WS4】「振り返りワークシート」／【WS5】「まち歩き計画書」／【WS6】「まち歩きのきまり」／【WS7】「まち歩きワークシート」／【WS8】「平成あらたま散策集をつくらう」

## ● その後の展開例

児童が作成した『こども散策集』や『地区散策集』は、それ自身が地域の文化的資産になり得る。この点を踏まえて、本プログラムが児童による主体的な文化的実践の展開につながることを期待する。例えば、次のような展開が考えられる。

- ・児童が作成した『こども散策集』や『地区散策集』を公民館等に展示し、地域の方々に見てもらう。
- ・児童がガイド役となって、地域の方々や観光客に散策ルートを歩いてもらうまち歩きイベントを開催する。

## ● 平成二十八年新玉小の取り組みにおける地域展開（39・40ページ参照）

— 地区文化祭での展示の様子 —



— 坂の上の雲ミュージアムでの展示の様子 —

